

アミロイドーシス診療センター



センターHP

1. スタッフ

- 植田 光晴 センター長 【兼任/脳神経内科学 教授】
- 安達 政隆 副センター長 【兼任/腎臓内科学 准教授】
- 尾田 済太郎 副センター長 【兼任/画像診断・治療科 准教授】
- 河野 和 副センター長 【兼任/血液・膠原病・感染症 内科学 助教】
- 神力 悟 副センター長 【兼任/臨床病態解析学 准教授】
- 高潮 征爾 副センター長 【兼任/循環器内科学 助教】
- 瀧原 祐史 副センター長 【兼任/眼科学 講師】
- 唐杉 樹 副センター長 【兼任/整形外科 講師】
- 磯野 香織 副センター長 【兼任/小児外科・移植外科 助教】
- 野村 隼也 副センター長 【兼任/脳神経内科学 助教】
- 田崎 雅義 副センター長 【兼任/臨床分析科学 教授】
- 三隅 洋平 【兼任/脳神経内科学 准教授】

2. センターの特徴、診療・業務内容

熊本大学病院「アミロイドーシス診療センター」は、脳神経内科を拠点として、全国の医療機関と連携し、アミロイドーシス診療支援サービスを行っている。

近年、アミロイドーシスの各病型に対する効果的な疾患修飾療法が次々と臨床応用されている。アミロイドーシスの各病型によって適切な治療法が異なるため、早期に適切なアミロイドーシス病型診断を行うことが、予後の改善に重要である。しかしながら、アミロイドーシスの病型診断には専門的な知識や技術が必要であり、一般医療機関における通常診療内では困難な場合が少なくない。我々は、アミロイドーシスの早期診断、早期治療の実現をミッションとして、全国の医療機関から依頼を受け、アミロイドーシス病型解析サポートを行っている。その他にもアミロイドーシスの適切な診断支援し、早期治療の実現に向けて様々な活動を行っている。

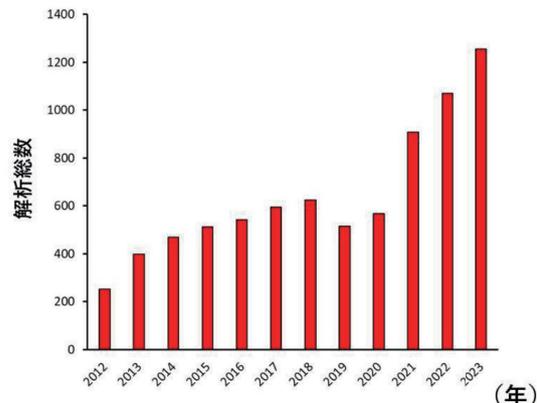
本アミロイドーシス診療センターは、国際的にも代表的な診療センターであり、その取り組みは国内外から大きな注目を集めている。当センターの取り組みは、Mayo clinic のGlobal bridges プロジェクトに採択され、診断サポートおよび疾患啓発を推進している。
(<https://globalbridges.org/impact-map/?mapproject=180>)

3. 体制

各診療科のご支援により、本症のエキスパートによる診断、治療体制のもとで、活動を行っている。

活動の詳細は当センターのホームページ上で公開している (<https://amyloidosis-center.com/>)。)

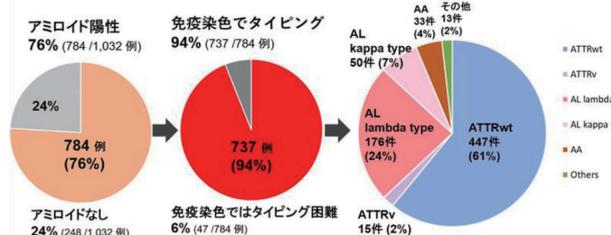
4. 活動実績



全国の医療機関より依頼を受け年間 1,255 件の依頼を受け解析いたした。アミロイドーシス病型解析 (免疫組織染色) が 1,032 件、組織アミロイド質量分析 (LMD-LC-MS/MS によるプロテオミクス解析) が 53 件、TTR および他の遺伝子検査が 170 件であった。

アミロイドーシス病型解析 (免疫組織染色) の結果 熊本大学アミロイドーシス診療センターでの解析例 (2023年1月~12月)

1,032件/年、検体受け取りから報告まで、平均 4.3日



5. 高度先進的な医療の取組

最新の分子標的薬や核酸医薬などを用いた先進的な医療を実践している。

6. 臨床試験・治験の取組

各種国際治験に参画し、新規治療薬の臨床応用に貢献している。

7. 地域医療への貢献

県内外の症例に対する診断サポートおよび最新の治療を提供している。

8. 医療人教育の取組

学生、研修医、専門修練医、医療従事者に対するアミロイドーシス診療に関する教育、啓発活動を行っている。

9. 研究活動

国内外の研究者と共同で研究活動を実践している。